

基本目標	1 豊かな自然とやさしい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり
------	------------------------------------

施策の柱	ア 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域
------	------------------------

<評価>

- A: 指標を上回って達成
- B: 指標通り達成
- C: 未達成

評価	B
----	----------

1 施策の内容

・就学前教育の充実と支援のためのシステムづくりに努めるとともに、親と子どもがともに育つ学習機会を充実します。
 ・子どもの人権を尊重し、子どもの安心・安全を保障する取り組みを推進します。

2 施策を構成する重点事業

・就学前教育の充実へのシステムづくり

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・長期社会体験研修	幼児教育から小学校教育への連続性を見通した教育のあり方の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの基礎として幼児期につけたい力をどう育むのかについて幼稚園職員と話し、子どもへのかかわりに生かした。 ・小学校への接続期や低学年での指導について見直すことができた。 ・幼稚園、保育所と小学校との連携・交流の推進が図れた。 課題: 今後この研修成果を小学校でどう還元するか。	B
・半日保育士体験	就学前の子どもの様子や小学校での指導研究	<ul style="list-style-type: none"> ・【小学校教諭にとっての成果】 就学前の子どもの育ちを知り、指導やかかわりを見直すことができた。指導の引き出しが増えた。就学前の様子を知り、入学時の子どもの気持ちが理解できた。保育所に声をかけやすくなった。 ・【保育所・園にとっての成果】 小学校に声をかけやすくなった。普段気付かないことに気付き、保育を振り返る機会になった。小学校の先生のかかわりから保育に生かせるものを見つけた。 	B
・同日公開参観日	保育や学習の取り組み内容、環境、子どもたちの様子の公開	<ul style="list-style-type: none"> ・【保護者等の感想】 好きな時間帯に参観できる。自分の子どもがいなくても、保・幼・小・中を見て回れる。祖父母も参観できる。宿題をみてやる時の参考になる。先生の子どもへの話し方など家庭での参考になる。 ・【学校にとって】 参観者の意見を生かし取り組みを考える機会になった。(基本的生活習慣の徹底、授業改善、環境等) 課題: 保幼小中という縦の参観、保保・小小・中中という渡り歩き。	B

・家庭教育の充実

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・子育て学習講座	保・幼・小・中学校保護者を対象にした「子育て」学習の実施	・参観日を利用した学習会は、多くの子を持つ親の参加があった。 今後は、家庭教育の充実を図るため、子育て学習講座は、保育所、園、学校、PTA等にまかせて、地域へ出かけていく事業を検討する。	B
・青少年街頭補導事業	・長期休業中の健全育成を図るため街頭補導の実施	・巡回中を全体的に見て平穏であり、不審者も見かけず、非行少年や夜遊びしている少年にも合わなかったが、補導日時、場所以外では、万引、喫煙等で補導された少年もいるとの報告も受けている。	B
・放課後子どもプラン	子どもほくえい塾、学童保育等放課後対策の運営協議会を開催	子どもたちが安心して体験・交流活動等に取り組める居場所を中央公民館と大栄分館として、地域の大人やボランティア指導者等が見守り、健全な青少年を育成するために生涯学習の成果を年間通して子どもたちに伝承する。	B

3 次年度以降の方針

・就学前教育の充実へのシステムづくり

・長期社会体験研修	
・半日保育士体験	継続(3年計画の3年目なのでまだ経験していない教職員の参加)
・同日公開参観日	継続(チラシを図書館、公民館などに置き広く呼びかける)

・家庭教育の充実

・子育て学習講座	継続(幼稚園・保育所で実施)
・青少年街頭補導事業	継続(青少年育成北栄町民会議で実施)
・放課後子どもプラン	継続(子どもほくえい塾はNPO法人まちづくりネットに委託)

教育委員会の意見・要望等

<p>就学前教育の充実へのシステムづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半日保育士体験...中学校の先生へも拡大し取り組んでもらいたい。 ・幼保一元化は推進するが、十分な説明が必要である。 <p>家庭教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て学習講座 <p>地域の人材をもっと活用すべきである。親としての学ぶ機会を継続して進めるべきである。</p>
--

基本目標	1 豊かな自然とやさしい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり
------	------------------------------------

施策の柱	イ 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども
------	--

< 評価 >

- A: 指標を上回って達成
- B: 指標通り達成
- C: 未達成

評価	B
----	---

2 施策を構成する重点事業

・地域文化とのふれあいを深める教育の推進

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・転入教職員の町内めぐり	町内の歴史、文化、自然を知り指導に役立てる	・教職員が北栄町に興味・関心を持つきっかけになっている。町内に出かける際に役立っている。児童生徒、保護者等と話したり親しくなるきっかけになっている。教職員が授業や活動等を考える際の参考になっている。(小学校では生活科、総合的な学習。中学校では社会科、技術・家庭科、学校便り等。) 課題: 行き先・実施時期について、授業・活動等への活用。	B

1 施策の内容 美しい自然の中で、子どもがのびのびと活動したり、地域の中で大人と共に学んだりすることを通して、自然や地域の文化、人の素晴らしさにふれあうことのできる環境づくりに努め、地域の教育力を高めます。

・地域文化の鑑賞機会の提供

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・青少年劇場巡回公演	小・中学生に質の高い優れた芸術文化を鑑賞できる機会の提供	・小学生対象の、生の演劇等を提供し情操教育、文化啓発を行ったが、全学年の児童のレベルに合った演劇の選定が必要かと思われる。(今回は低学年ほど反応が高かった) ・中学生対象の芸術鑑賞は、日本の伝承楽器の認知のために有意義であったと思われる。	B
・民俗芸能伝承	町内の伝統的な民俗芸能を記録する	・年々廃れ行く、地域の伝承芸能文化、祭礼の保存のため記録を行っているが、地域に埋もれた伝承芸能、祭礼の掘り起こし、保存活動の取り組みが必要と考えられる。	B
・芸術文化活動	町民一般の方に質の高い優れた芸術文化の鑑賞機会の提供	・ボランティアの実行委員で運営し、多くの町民の方が音楽芸術を鑑賞する機会を提供できた。アザレアのまち音楽祭の一環として実施するのではなく、町独自の音楽祭として実施していく方法も考えられる。(入場者308名)	A
・歴史民俗資料館での展示	本町に関係した芸術文化資料の展示、紹介を行う	・【企画展入館者数】 文字が語る古代展 : 167名 世界の貝殻展 : 200名 陶工 生田和孝展 : 407名 書の文化 道祖尾良苑展 : 523名 刀鍛冶 道祖尾広賀展 : 824名 特に、中部地区で6年ぶりとなる日本刀の企画展は、県内外から824名の入館者(実数はもっと増える)があり、北栄町、県中部の文化発信が出来た。年度内の資料館の改装による展示面積の拡張により、来年度は、より企画力の高い文化情報発信に努めていく。(情報発信の強化)	B

3 次年度以降の方針

・地域文化とのふれあいを深める教育の推進

・転入教職員の町内めぐり	継続(実施は着任式の後にした。コース、資料の見直し。指導に役立つような手立てを講じる。)
--------------	--

・地域文化の鑑賞機会の提供

・青少年劇場巡回公演	継続(町内小中学校での1校1公演を目指す。)
・民俗芸能伝承	継続(無形文化財の発掘に努め記録保存していく。)
・芸術文化活動	継続(文化団体または芸術活動家等との協働運営を指向していく。)
・歴史民俗資料館での展示	継続(本町に関係の深い展示を中心に実施。) 生田和孝作品常設展示室の活用

教育委員会の意見・要望等

地域文化とのふれあいを深める教育の推進 ・学校教育の中で、子どもたちと地域文化のふれあいを深める活動を積極的に取り入れ、実施してもらいたい。 地域文化の鑑賞機会の提供 ・子どもたちが休日を過ごす一つの選択肢として、歴史民俗資料館や公民館、図書館が活用出来ることをアピールする必要がある。
--

基本目標	1 豊かな自然とやさしい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり
------	------------------------------------

施策の柱	ウ 仲良く遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども
------	--------------------------------

< 評価 >

- A: 指標を上回って達成
- B: 指標通り達成
- C: 未達成

評価	B
----	----------

2 施策を構成する重点事業

・保、幼、小、中の連携の充実

1 施策の内容

・保・幼・小・中の連携のもと、異年齢間の交流や活動を通して、子どもの仲間作り育ちを支援し、学校での人権・同和教育を通して子どもが命の大切さを学びます。
 ・家庭や地域の中では、子どもの健全育成を推進する教育力の充実を図り、基本的な生き方を身につけさせるとともに、一人ひとりの存在を認め合いながら、自立する子どもの育成をめざします。

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・教員の人事交流、町教育振興連絡協議会、小・中連携強化事業、レインボープランの推進	保、幼、小、中、高等学校との連携・交流に関する実践研究の推進と成果の波及を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の滑らかな接続を目指して、小学校及び中学校の学習指導や生活指導等それぞれのよさをお互いに参考にすることができた。 ・児童生徒が定期的に交流会を持つことで、小学生は中学生に対しての憧れを持つ、中学生は小学生から必要にされているという満足感などを実感できている。 ・高等学校の様々な手法(人間関係づくり・定期テストのデータ分析・学習指導・部活動の指導など)を学び、小中学校で活かすことができた。 	B

・家庭教育の充実と青少年の健全育成

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・家庭の教育力アップ事業	家庭の教育力向上を図るため、講演会の実施	・北条地区と大栄地区に分けての親(大人)の家庭教育講演会は、意外と少なかった。子どもを対象にした体験交流学習は、参加者は多かったが、今後を考えるとPTA及び保護者会等との共催とか実施方法の検討をする。	B
・21世紀をつくる青少年の育成	地域に根ざした中学・高校生世代の地域活動リーダーの育成	・マラソン大会を始めとする様々なボランティアや子どもほくえい塾への協力、小学生との交流など活動内容は多岐に渡り、また充実している。しかし、高校3年生部員が多く、また新規部員が増えていないことから来年度の会員が大幅に減少してしまい、活動が停滞することを懸念している。	B

3 次年度以降の方針

・保、幼、小、中の連携の充実

・教員の人事交流，町教育振興連絡協議会，小・中連携強化事業，レインボープランの推進	継続(生活態度や学習規律の問題を解決するためにも、さらに教職員の共通理解・共通実践を図る。) (それぞれの教育活動の目標の中で、相互の関係があるものを明確にし、横の連携を図る必要がある。)
---	---

・家庭教育の充実と青少年の健全育成

・家庭の教育力アップ事業	継続(アンケートを基に、家庭教育に関する座談会、意見交換会等を実施していく。)
・21世紀をつくる青少年の育成	継続(ボランティアサークル会員の勧誘に努める。)

教育委員会の意見・要望等

保、幼、小、中の連携の充実
・連携を更に深め、教科指導等の研究をしていく必要がある。
家庭教育の充実と青少年の健全育成
・異年齢間の交流や活動を地域の中で活発化する必要がある。

基本目標	1 豊かな自然とやさしい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり
------	------------------------------------

施策の柱	エ 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育
------	------------------------------------

< 評価 >

- A: 指標を上回って達成
- B: 指標通り達成
- C: 未達成

評価	B
----	----------

2 施策を構成する重点事業

・学校教育の充実

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・少人数学級の推進	小学校1・2年生、中学校1年生の少人数学級及び町基準(小学校33人、中学校35人学級)の編成	少人数学級編制により、家庭環境や学力面に課題のある児童生徒に対して、一人一人の基礎学力の定着や主体的な学習の取り組みの充実を図るために、学習指導面、生活指導面とも日常的な細やかな指導の積み上げができ広がる。	B
・特別支援教育補佐員及び学校司書補佐員の配置	子どもが意欲を持って取り組むことができるよう積極的に支援を行う。	・日常の学習や生活において、特別に支援が必要な児童生徒への個別の対応をしつつ、あわせて効率よく授業展開することが可能となり、年間指導計画に基づく一人一人の児童生徒の習得すべきことを身につけさせるための学習時間の確保ができつつある。	B

・国際化に応じた教育の充実

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・英語指導助手の配置	中学校のみならず、小学校、幼稚園・保育所での国際理解教育の推進	・聞くこと・話すことを中心に子どもと関わり、対話を通して英語への興味・関心を深め、英語によるコミュニケーションの楽しさを体験させた。また、授業を通じて異文化に触れることで、国際理解に対する意識や関心を高め、国際感覚を育てることに貢献している。	B

1 施策の内容

子どもの目が輝き、笑顔で学習や活動に取り組み、学ぶことの大切さや喜びを味わいながら基礎的・基本的な内容を身につけ、自ら学び・考え・行動する力を育成する学校教育を進めます。

3 次年度以降の方針

・学校教育の充実

・少人数学級の推進	継続(学習活動や内容によって、指導方法及び学習隊形(コの字、小グループ等)の改善や研究を促進させる。)
・特別支援教育補佐員及び学校司書補佐員の配置	継続(配慮の必要な児童生徒への適切な対応が必要である。) (特別支援教育の充実にむけて、医療や福祉、家庭と連携しながら自立を目指した指導が必要である。)

・国際化に応じた教育の充実

・英語指導助手の配置	継続(小学校の新学習指導要領の中で、ALTの活用等を図ることも示めされており、継続が必要。)
------------	--

教育委員会の意見・要望等

学校教育の充実 ・子どもたちの学びを支える人的配置は、継続する必要がある。 ・指導法の工夫改善とともに学力の向上を図る。 国際化に応じた教育の充実 ・地域ボランティアの活用を図る

基本目標	2 町民みんなが、人権を尊重して仲良く暮らせ、楽しく学び、夢が実現できる環境づくり
------	---

施策の柱	オ 人権を尊重する機運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町
------	--

< 評価 >

- A: 指標を上回って達成
- B: 指標通り達成
- C: 未達成

評価	B
----	----------

2 施策を構成する重点事業

・人権同和教育の推進

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・人権教育講演会の開催	人権問題に対する正しい理解と認識を深めるため講演会を開催する	参加者からは、中倉さんの実体験をもとに熱く語りかける講演に「普段なかなか聞くことのできない若者の視点から人権を学ぶことができた」等の感想が多く聞かれ、講演をととして認識を深めることができた。	B
・「人権同和教育小地域懇談会」の開催	住民一人ひとりが差別の現実から学び、人権尊重の視点で身の回りを点検することで、すべての人が支え合い「安全」「安心」に暮らせる地域を築く一助とする。	住民の学習ニーズ並びに自治会がかかえる人権課題に沿った複数の学習テーマを設定することで、地域に根ざした懇談会を計画する主体的な取組みが行われるようになってきた。その一方で、推進側の意図をうまくすり合わせながら学習プログラムを作成することで、あらゆる人権問題に対する正しい理解を広げていく必要がある。	B

1 施策の内容 「部落差別をはじめあらゆる差別をなくする条例」に基づき、人権・同和教育の取り組みを充実し、町民一人ひとりの基本的人権が尊重され、さまざまな活動や交流等をする中で人間性や社会性を磨き、幸せに暮らせる環境づくりに努めます。

・人権尊重町づくりの推進

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・「人権の花運動」の実施	花を育てることを通して、命の尊さを学び、豊かな心・思いやりの心を養う	児童が相互に協力し合いながら花を育てることによって、生物の尊さを実感する中で、豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得した。	B
・部落解放文化祭の実施	地域住民の連携と人権意識の高揚を図り、部落の完全解放を進めることを目的とする。	本年度から町として一本化し、同日に北条・大栄会場にて開催した。学習や文化活動の成果を発表し、多くの参加者があった。住民同士が交流を深めるなかで、人権意識の高揚を図ることができた。	B

3 次年度以降の方針

・人権同和教育の推進

・人権教育講演会の開催	継続(部落解放月間行事として、同和問題をはじめとした人権問題に対する正しい理解と認識を深める)
・「人権同和教育小地域懇談会」の開催	継続(町内全自治会を対象に地域単位での人権学習の場を提供する)

・人権尊重町づくりの推進

・「人権の花運動」の実施	継続(次年度は北条・大栄小学校を対象に実施)
・部落解放文化祭の実施	継続(実行検討委員会を立ち上げ、日程・運営等について話し合いを行う。)

教育委員会の意見・要望等

人権同和教育の推進
・人権教育に関する啓発活動は継続する必要がある。
・人権同和問題を自分の課題として捉えられるメニューの提供

基本目標	2 町民みんなが、人権を尊重して仲良く暮らせ、楽しく学び、夢が実現できる環境づくり
------	---

施策の柱	力	学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町
------	---	--

< 評価 >

- A: 指標を上回って達成
- B: 指標通り達成
- C: 未達成

評価	B
----	----------

1 施策の内容

生涯学習の推進体制を充実し、スポーツクラブや文化活動をする団体等の育成を図り、町民が生涯を通して楽しく学べ、スポーツや文化に親しむことができる環境づくりを推進します。また、町民一人一人が自らの健康管理をするため、食育や体力づくりを進めます。
 ・自らの夢を実現しようとする人を支援し、町民が嬉々として暮らせる安心・安全な町をめざします。

2 施策を構成する重点事業

・公民館活動の推進

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・公民館講座の開催	生涯学習の場となるための世代別・課題別講座の開催	学習意欲旺盛なシニアクラブのニーズに応えるため、多種にわたって学習メニューを用意した。また、活動の中で仲間づくりや社会参加に役立った。会員数160人。 総合学習8回、コース別学習10回、交流学習:開講式、グラウンドゴルフ交流会、野外研修、閉講式。	B
・北栄文芸の発刊	幅広い年齢層に応じて文芸に親しみ文芸の芽を育てる場として作品を募集し年4回文芸誌を発刊する	第14号(4月)、第15号(7月)、第16号(10月)、第17号(1月)発刊済。 7月18日、投稿者の集い開催。投稿者、編集委員等24人が参加し、北栄文芸に対する思いやそれぞれの創作活動について懇談。	B
・美術展及び公民館まつりの開催	文化活動者の拡大と町民の文化意識を高めるために発表と鑑賞の機会を提供する	・美術展(11月3日～15日):出展数116点 美術展賞8点、奨励賞9点。来場者572人。 ・公民館まつり(1月30日～2月7日) 作品展 出品数315点 来場者1,985人 芸能発表会 出演者44組 来場者704人	B

・図書館活動の推進

事業計画	指標	事業の成果等	評価
・図書館情報システムの活用	分室・小中4校にシステムを導入、横断検索にも参加し広く活用する。	・横断検索を利用した、県・市町立図書館との相互貸借により、多くの資料を利用者に提供できた。 ・平成21年度2月末現在 Web検索5,431件 予約445件。 貸出冊数(分室・BM含む、雑誌・AV資料含む) 89,464冊	B
・乳幼児とその保護者を対象に絵本の読み聞かせ等を実施する	生後7ヶ月の赤ちゃんを対象にブックスタート。赤ちゃん向けのお話会を毎月2回実施	・乳児検診(7ヶ月)時に、乳児と保護者に対してブックスタート事業を行った。読みかかせの重要性を説明し、実際絵本の読みかかせを行った。平成21年度 107組 (2月末現在) ・赤ちゃん向けのお話し会 毎月2回実施 ブックスタート事業により保護者が図書館へ足を運びきっかけとなったり、赤ちゃん向けのおはなし会にも参加され、保護者同士が育児などの情報交換の場になっている。5歳児検診時の読みかかせも行った。	B

3 次年度以降の方針

・公民館活動の推進

・公民館講座の開催	継続(新たな講座・教室を行う。)
・北栄文芸の発刊	継続(年4回発行。さらなる投稿者増のための啓発を行う。)
・美術展及び公民館まつりの開催	継続(広報・宣伝を重点的に行い、さらなる出展者・鑑賞者の増を図る。)

・図書館活動の推進

・図書館情報システムの活用	継続(図書館システムを活用して、レファレンス業務に力を入れる。)
・乳幼児とその保護者を対象に絵本の読み聞かせ等を実施する	継続(読み聞かせボランティアの養成をする。)

教育委員会の意見・要望等

公民館活動の推進
・他の事業と連携した公民館講座の充実策を図る必要がある。
・若い層が集える公民館活動を模索すべき。
・役割分担をしながら、事業を推進する。